

## 突破力でヒット商品生み出す

薬が飲めなくて苦しんでいる患者を救いたい——。龍角散執行役員開発本部長の福居篤子さんは、製剤のプロフェッショナルとして、薬を飲みやすくするヒット商品の開発を数多く手がけてきた。かつて病院薬剤師として病棟に出向き、日々服薬に苦悩する患者を目の当たりにしてきた福居さん。「なぜ製薬会社はこんなに飲みにくい薬を作るんだろう」と疑問に感じ、「だったら私が作る側に行こう」と製薬会社への転職を決心した。研究開発部に所属しながら、幅広い業務を経験。社内では持ち前のパワーで頭角を現す一方、不遇の時代も味わった。それでもあきらめず、製剤を極めようと一念発起して薬学博士号を取得。日本薬剤学会の「旭化成製剤学奨励賞」の受賞をはじめ、誰もが納得する評価を得て今の地位を築いた。そんな福居さんは、薬学生に「自分で人生のレールを狭くしている学生が多いのでは。もっと視野を広く持ち、いろんなことに興味を持って楽しんでほしい」と熱いメッセージを送る。



## 飲みやすい薬を…臨床経験が原点

福居さんの原点は病院薬剤師だ。第一薬科大学薬学部を卒業後、福岡徳州会病院に就職。24時間診療をコンセプトにする病院の方針のもと、臨床薬剤師として歩み出した。当時から病院は、医師、看護師、薬剤師のチーム医療を実践しており、24時間診療のため当直も救急現場も経験した。忙しく目まぐるしい毎日だったが、福居さんは「すごく勉強になった」と振り返る。その背中を押してくれたのが当時の薬剤部長。「どんなトラブルがあっても翌日には解決してくれたし、医師に対しておかしいと思うことはきちんとと言える人だった。患者さんのためになることは何でもやらせてくれた」

そんな毎日の業務の中で、病棟に出向くと、患者が服薬に苦しんでいる姿を目撃した。子どもたちは食後の服薬を嫌がり泣き叫んだ。嚥下障害のある高齢者は、食事に薬を混ぜていた。安全に服薬するための方法であったが、本当は食事と服薬は別々にし

たい。困っている患者を目の前にしたら、何とかしなければいけないと考えた福居さん。「どうして製薬会社はこんな飲みにくい薬を作っているのか」と疑問に感じ、それならば自分で患者が飲みやすい薬を作ろうと製薬会社に転職することを決意した。病院薬剤師になって3年後のことだった。

入社したのは、のど薬のメーカーとして伝統のある龍角散。研究開発部門の募集だったが、薬品分析や製剤、生産、企画、薬事と全ての部署を横断にカバーできる人材を求めており、「いろんな仕事ができる」と魅力を感じた。最初に与えられたテーマは徐放性製剤。1日2回の服用で済む一般用鼻炎カプセルの開発だ。当時は1日3回の服用が主流の中、医療用成分を含有させ、新薬並みの吸収、排泄データを揃えることで、眠くなりやすく、口が渴かないことにこだわった結果、無事発売にこぎ着けた。承認申請資料も自分で作成した。



福居 篤子さん

龍角散執行役員開発本部長

入社して6年ほど経った頃、営業部門から「OTC薬を買ってすぐ服用したい人のためにパック入りの水を作ってほしい」と要望を受けた。当時はペットボトルのミネラルウォーターは贅沢だと考える人が多かった時代だったが、福居さんは病院薬剤師の経験から「水で薬を飲むと、むせてしまう人が大勢いる」と考え、服薬を補助する“ゼリー”を開発した。

(12ページへ続く)

## 株式会社プチファーマシスト

関西圏を中心に全国へオレンジ・元気薬局を展開

初年度年収 **450~550万** 希望エリアでの勤務OK! 働き次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します



新卒生限定 **10泊12日** ハワイ研修実施!

インターンシップ参加者募集

オレンジ薬局

検索



## 薬剤師 国家試験 対策.com

薬剤師を目指す薬学生のための国家試験対策支援サイトです



ご登録・ご利用完全無料

be89314

検索